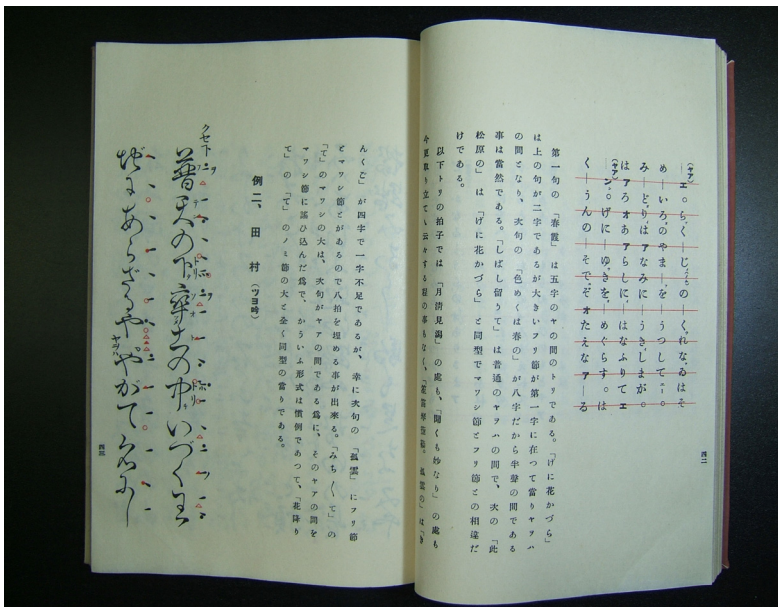
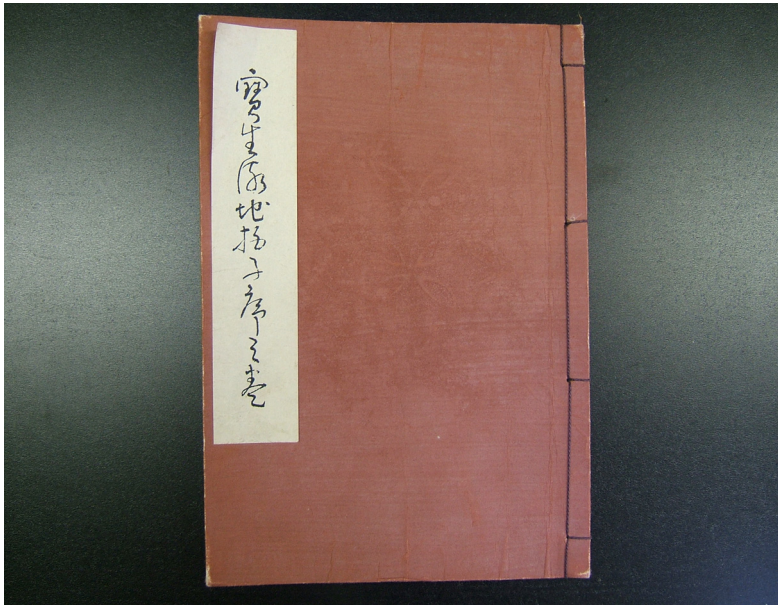


吉田魯洋 『宝生流地拍子序之卷』

装丁は88頁に似ているが独立した書物である。拍子理解の必要性を述べる序、地拍子概説の後、平ノリの地拍子を曲節（小段）の順にそつて解説、以下、中ノリ、大ノリの順に続く。写真下のように「地拍子処を謡本文に朱の地拍子粒付をつけ、その後と同じ処を八ツ割線にてかゝげ、その詳細なる解説を附」（わんや広告より）している（ただし、写真下右は羽衣八割、左は田村粒付）。附録に、拍間を三分割するフオーマット（24頁参照）が平ノリの理想的割付として紹介されるが、本文中では使われない。



標題 内題：—

標題紙：宝生流地拍子序之卷

奥附：宝生流地拍子序之卷

その他：宝生流地拍子 序之卷（題簽）

著者 奥附：吉田魯洋

その他の場所：吉田魯洋（標題紙・序）

出版 版次：再版

出版地：東京

出版社：わんや書店

出版年：昭和10（1935）

その他の場所：序 昭和10（1935）

形態 冊数：一冊 頁数：一〇二頁

寸法：23×16（cm）

状態 写本版本の別：版本 現物複写の別：現物

備考 奥附には「昭和十年三月二十五日再版發行」とあるが初版の間違いか。宝生重英

監修。